

大型火葬炉の増設を

財源を含め四万十市と協議

問 幡多中央斎場は、旧中村市と旧大方町で幡多中央環境施設組合を設立し、火葬炉大型1基、標準炉2基、手術の肢体用五型1基を設置して平成7年6月からの稼働。すでに21年が経過しており、炉の耐用年数も過ぎてきている。小型炉の臭気抜きは隣の大型炉配管を兼用しているのですが、小型炉を使用するには大型炉が使用できないようだ。火葬状況調べによれば平成8年〜27年の間に四万十市7687体、黒潮町3459体、組合外142

7体の合計1万2573体の火葬がされており、これから高齢者社会（2030年度には両市町合わせて75歳以上の人口は1万340人になる）との人口分析がされている。を考えても、大型炉1基増設をして既存の四基を順次点検し、修理をして延命すべきであり、執行部は四万十市と協議をし、増設に向け早急に取り組む考えはあるか。

答 藤本住民課長

この施設は、操業開始から

21年を迎え、施設全体の老朽化が進んでいる。既存の設置炉で毎年700件を超える火葬を行っており、炉の耐用年数が16年というのを考慮すると、大型炉を増やして現在ある4基を順次点検、修理をしなければならぬと考えているが、現状は施設全体の冷

暖房の空調設備が相次いで故障しており、平成26年度火葬炉棟、平成27年度は式場、平成28年度は和室と待合室、ロビーなどの管理棟を直さなければならず、新設についてはそれ以降の対応になる。現在は定期点検と補修で延命化を図っているが、1基でも故障すると円滑な業務の遂行に支障を及ぼす。棺の大型化に伴い大型炉の新設が必要と考えているが、そのための費用が3500万〜4千万円必要だと聞いており、財源の確保などを含めて四万十市と十分に協議を行い、幡多中央環境施設組合議会への提案を早急に取り組まなければと考えている。

問 現在の使用料金は組合員

で13歳以上2万円、13歳未満1万円、組合員外は4万円と3万円。四万十町などを調べてみたが、組合員外の分を1万円程値上げを検討し、修理目的に積み立てをして和室の障子、襖、畳替えなどに充てれば最終的には利用者への

サービスになると思うが、その検討はするのか。

答 藤本住民課長

施設全体の老朽化が進んでいるが、財源確保が困難な状況となっており、市民、町民の負担が増加しない形で財源確保する方法は有意識で検討する必要がありますと思う。四万十市との十分な協議と併せ

て、宿毛市、土佐清水市など斎場を所有する市や、それを利用している大月町、三原村への周知と理解を図りながら慎重に検討していきたい。

【その他の質問】

※避難所のトイレについて
※町道について
※告知放送の音量について
※介護保険料について



もり 治史 議員



改修が望まれる幡多中央斎場